

第3回 神戸市立中学校標準服のあり方に関する検討会（議事要旨）

○第2回検討会議事要旨の確認について

- ・ ネットモニターアンケート調査結果の報告について
- ・ 参考人からの意見聴取（衣服に関する専門的立場からの意見）について
- ・ 参考人からの意見聴取（学生服の供給側の立場からの意見）について
- ・ 意見聴取後の意見等

○市立中学校における取組事例の報告について

- ・ ひとつの中学校において約60年にわたり大切に受け継がれてきている標準服（詰襟）を、生地やデザイン、機能性の向上、自然環境の変化、価値観の多様化等の課題への対応の必要性があり、早期に再考する必要があるとの考えのもと、モデルチェンジに向けた取組を紹介。
- ・ 現行の標準服に関する諸課題等の意見聴取、標準服変更に伴う課題の分析、検討、選定準備並びに手続他を実施するために標準服検討委員会を立ち上げる。
- ・ 組織は、学校委員（校長、教頭学年主任など）、保護者委員（PTA本部役員）、外部委員（小学校代表保護者数名など）
- ・ 創立70年以上の伝統校として、モデルチェンジ後の標準服の使用の一部に「神戸タータン」を取り入れる等の検討。
- ・ 生徒へのアンケート実施。また、時期を変え、在校生保護者、小学校保護者（第5、6学年）等へのアンケート実施。
- ・ 令和2年3月、学校玄関での展示やホームページへの掲載など、新標準服を発表する予定。
- ・ 取組事例を紹介し、ひとつのモデルが出来ることは、各学校長にとっては新たに展開するうえでの良い見本となる。

○これまでの検討会を踏まえた論点整理について

- ・ 主要な論点は、性的マイノリティへの適切な対応、保護者の経済的負担の軽減の2点。
- ・ 「女子生徒のスラックス」と同様の扱いとして、「男子生徒のスカート」ということも並列して盛り込み、選択肢を示しておくことが公平性を考えるうえで大事である。本人が選択できるという状況を作ることが望ましい。
- ・ 福岡市や北九州市のように、男女並列で組み合わせは自由というモデルを提示することが良い手法だと考える。また、啓発を繰り返し行わなければ、理解される時期は自然には来ない。啓発ということも抱き合わせで行うことが望ましい。
- ・ LGBTだけではなく、自分を男性と女性の間と認識する、男性と女性の両者である、男性と女性のいずれでもない、男性と女性を行ったり来たりする流動的な性であると認識するXジェンダーという方もいる。
- ・ 小規模校は、中学校に関わらず小学校でも教材費などの負担が大きい。小学校が小規模で中学校に進学しても小規模であれば、保護者の経済的負担は大きいままとなる。
- ・ 制服購入にあたっては、現状の一括購入の他に分割払いやサブスクリプション方式という考え方もある。3年間で着終わるのであれば、毎月支払いをする方法も考えられる。